

地域づくり活動 NPO 事業助成事業 実績報告

事業区分 (19-04)

団体名	(特非) 丹波ひとまち支援機構	代表者名	代表理事 久 隆浩 戸田 幸典
事業名	丹波「社会的つながり」プロジェクト (第2期)		

<事業実施実績>

年月日 定例は 「月1回」 「毎○曜 日」等で 記入	場所	参加者 一般 (スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) ※講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
5月 ~2月	丹波市内	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>つながりを生み出す事例調査 ※主に事例を整理・分析した期間は1月~2月</li> <li>交流会での報告事例のポータルサイトの掲載 (1事例: 7月10日公開 / 3事例: 2月19日公開) ほか、随時ポータルサイトでの広報や情報発信</li> <li>2年弱の事例リストについてポータルサイトに掲載 (2月28日) (事前調査、交流会、講座、ふりかえり交流会含む)</li> </ul>
7月 2日 16日 11月 5日 19日 2月 4日 18日	主に 丹波市内	丹波市民 ラジオリ スナー	<p>FM805たんば「ラジオ喫茶ここちか」(約30分番組)での特別番組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月(1回目): ゲスト 中村 幸さん (丹波市 社会福祉課 社会福祉係・丹波市民生委員児童委員連合会事務局)</li> </ul> <p>「丹波市民生委員児童委員連合会「コロナ禍における高齢者見守り推進事業」による往復はがきと訪問でみてきたこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月(2回目): ゲスト 竹内秀介さん(竹内薬品株式会社 代表取締役社長) 「本業(置き薬)を通じた「御用聞き」生活支援サービス」</li> <li>11月(2回とも): ゲスト 大槻真也さん(株式会社ネクステ代表取締役) 稲次菜穂子さん(南部地域包括支援センター長) 「横につながる交流会立ち上げのきっかけ・思いを中心に、お二人の事業や活動について」 「横につながる交流会の内容やこれからに向けて」</li> <li>2月(2回とも): ゲスト 橋本千英さん(あおがきdeあそび隊 隊長) 「橋本さんが、外遊びを始めたきっかけ・背景」 「あそび隊の取り組み、子どもの様子や今後について」 スタッフコーナーでは「#3交流会・事例調査の内容等」</li> </ul>
6月25日	丹波市市 民プラザ	25 (3)	<p>#1交流会 「高齢者とのつながり・見守りのために、私たちにできること」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 取組報告・情報提供</li> <li>「コロナ禍における高齢者見守り推進事業」による往復はがきと訪問でみてきたこと</li> <li>中村 幸さん(丹波市社会福祉課 丹波市民生委員児童委員連合会事</li> </ul>

			務局) ・ 本業（置き薬）を通した「御用聞き」生活支援サービス 竹内 秀介さん（竹内薬品株式会社代表取締役社長）  ②ワールドカフェ形式での連携した取組のアイデア出し
9月29日	丹波市市民プラザ	24 (3)	# 2 交流会 「社会的つながりを生み出すプラットフォームの相互理解・連携」 ①各主体の連携の場づくりの目的・内容の報告 ・ 『横につながる交流会』 大槻 真也さん（世話人／（株）ネクステ） ・ 『地域つながるミーティング』 竹尾 伸一さん （生活協同組合コープこうべ地区本部事務所 第4地区本部） ・ 『支えあい推進会議』 藤本 裕二さん（社会福祉法人丹波市社会福祉協議会 地域福祉課） 庄司 滉祐さん、奥田 祐希さん、藤本 友恵さん（同地域支えあい推進員） ・ 『福祉総合相談連携会議』 吉見 武士さん（丹波市 社会福祉課 福祉総合相談係） ・ 『丹波「社会的つながり」プロジェクト』 法橋 聡（NPO法人丹波ひとまち支援機構 理事）  ②連携に向けた全体での協議
1月19日	芦田集学校	36 (3)	# 3 交流会 「つながりによって子どもたちの育ちを丹波で豊かにするためには」 ①事例報告 ・ 「丹波市唯一のフリースクールでの取り組みからみえてくること」 FRSCたんば 竹安恵さん 足立晃一郎さん ・ 「子どもたちと地域・自然とのつながりをつくる」 あおがきdeあそび隊長 橋本千英さん ・ 「芦田集学校という拠点での子どもたちの関わり」 リングロー株式会社 芦田集学校校長 小寺啓基さん  ②グループで「子どもの育ちを豊かにするには」意見交換
2月25日	丹波市市民プラザ 及びZOOM	27 (4)	講演会&交流会 『丹波で「つながり」を生み出すために必要な連携のあり方』 ～ほんまもんの連携をみんなで考え・話しましょう～ ・ 報告『プロジェクトで取り組んできたこと （交流会・事例調査）と今後の課題』 戸田幸典 NPO法人丹波ひとまち支援機構 代表理事  ・ 講演『丹波で「つながり」を生み出すために必要な連携のあり方』 竹端 寛 さん 兵庫県立大学環境人間学部 准教授  ・ グループディスカッション～全体でディスカッション（オンライン参加者はオンライン参加者同士） ・ プロジェクト終了と今後の展開について

## <効果と成果>

- ①交流：交流会には毎回のテーマに応じて多様な主体（市民活動、行政、企業、自治会、議員等）が集う場に。取組主体の連携を促す場を企画している主体間の連携の場や、活動現場での開催など、質・量ともに交流と連携の場が広がってきたことで、定期的・継続的に開いていくことが求められている。
- ②収集：重点的に調査するとした、自治協議会が把握している取組の調査を実施した。新聞記事（4紙）掲載情報の追加調査を行うことができ、丹波市内の事例の蓄積・分析ができた（R4年3月～R5年2月）
- ③連携：連携した新たな事業の実現はまだ確認できていないが、たんばローカルグッドネットワークはまころ（企業ネットワーク）の創設など、これをきっかけに連携の機会が広がっている。
- ④発信：ポータルサイトを引き続き運用、事例調査等をふまえて、重点的に取り組むとしていた活動の見える化の充実を図った。ラジオ番組での放送6番組で社会的つながりの取り組みの可視化を進めた。
- ⑤報告：今後の展開を見据え、講演会を開催、つながりづくりの主体者としての連携に必要な基礎を共有。

## <今後の展望>

- ・ 約1年半取り組んできたプロジェクトはコロナ禍において、きっかけ・呼び水・投資的に実施してきたものでもあり、今年度で一旦終了とする。以後、このような場合は生活支援体制整備事業の1層協議体やその他社会福祉「協議会」としての役割として期待する（申し送っている）。
- ・ 地域に求められる、交流・連携の場「横につながる交流会」主宰者と連携し、継続しつつ、指定管理を行う丹波市市民活動支援センターにおいて、学びと交流から生まれる連携をテーマに企画を検討する。
- ・ 当法人としては、来年度以降はより具体的に地域課題解決のための主体間連携事業創出にむけたプログラム（今年度から別事業にて具体化を図っているもの：市民活動を生み出すプラットフォーム創生事業）を進化させていく予定。

## <収支決算書>

### (収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	500,000
寄付金	17,859
自己資金	2,173
合計	520,032

### (支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金 (円)
直接 経 費	給与手当	199,835	194,047
	謝礼金	146,000	146,000
	通信費	118,146	118,146
	その他（印刷費・会場費等）	20,919	15,919
	小 計	484,900	474,112
間接経費（一般管理費）		35,132	25,888
合 計		520,032	500,000